

内容

< >日常のコミュニケーション能力を高める	
ねらい：日常生活を振り返り、人間関係におけるトラブルへの対処法をとおして、自分の気持ちを的確に表現できるようなコミュニケーション能力や対人関係能力を高める。	
所要時間：1時間20分	
準備物：いす、机、筆記用具、タイマー、ワークシート	
内 容	
活動内容	留意点
(注) 太字は研修リーダーの台詞	(注) 印は留意点、 印は活動の意図
<p>00:00</p> <p>1 ねらいと留意点について説明する。</p> <p>(1) 「この研修のねらいは、日常生活を振り返り、人間関係におけるトラブルへの対処法をとおして、自分の気持ちを的確に表現できるようなコミュニケーション能力や対人関係能力を高めることです。」</p> <p>(2) 「なお実習に際しては個人的な内容も多く出ます。プライバシーへの配慮をお願いいたします。」</p> <p>00:02</p> <p>2 トラブルが起こったときの対処法について考える。</p> <p>(1) 「皆さんは人間関係でトラブルに巻き込まれたとき、どのように対処していますか。」</p> <p>(2) 「トラブルへの対処法として一般的な手順はこの図にありますように、では、どういう問題が起こったのか事実関係を明らかにします。では、問題への対処方法とその処理の順序を決定します。で決定した対処方法を実行し、最後に、で対処方法を実行した結果について、確認します。」</p> <p>「ここまでで、何かご質問はありませんか。」</p>	<p>研修のねらいについて簡潔に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員自身が日常生活での人間関係のトラブルを振り返る ・望ましいコミュニケーションの在り方についての認識を深める <p>個人情報保護やプライバシーへの配慮について、注意を喚起する。</p> <p>人はトラブルへの対処法を考えることで成長するものであることに気づく。</p> <p>参加者へは説明の内容を「トラブルへの対処法」として紙に書いて提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">トラブルへの対処法</p> <p>問題の明確化 問題への対処法について考える 対処法を決定する 対処の順序を考える 対処の順序の決定 対処法の実行 結果の確認</p> </div> <p>トラブルの予防を主な目的とする危機管理マネジメントとは異なることに留意する。この手法をソーシャルスキルトレーニング^(参考1)と呼ぶ。</p>
<p>00:15</p> <p>3 4～5人のグループをつくる。</p> <p>「近くの人同士で4人のグループをつくってください。人数が余れば5人グループでも結構です。」</p>	<p>近くの者同士が、4～5名ごとに1グループで輪になって座る。</p>
<p>00:20</p> <p>4 ワークシート^(資料4-1)を使って、人間関係のトラブルへの対処について考える。</p>	

<p>「今回は、ワークシートを使って、人間関係のトラブルへの対処について考えます。今から一人1枚ワークシートを配ります。各自で記入していただき、その後グループで話し合います。では10分程度で記入してください。」</p>	<p>ワークシート「人間関係でのトラブル対処法」に記入し、対処の手順について理解する。この研修を応用して、子どもたちへ実施する際にはワークシート(資料4-2)を用いる。</p>
<p>00:35 5 グループで話し合う。 「記入したワークシートをもとにグループでトラブル対処の方法について話し合ってください。一人3分程度で、全体で15分程度、話し合ってください。後でどんな話が出たか発表してもらいますので、発表者も決めておいてください。」</p>	<p>グループで話し合うことで、自分の欠点や新たな対処法に気づく。</p>
<p>00:55 6 全体で話し合う。 「では、各グループの話し合いで、出た話を発表してください。」</p>	<p>各グループで話し合ったことを、全体で共有する。</p>
<p>01:10 7 まとめをする。 (1) 「この研修のねらいは、日常生活を振り返り、人間関係におけるトラブルへの対処法をとおして、自分の気持ちを的確に表現できるようなコミュニケーション能力や対人関係能力を高めることでした。いかがでしたでしょうか。」 (2) 「なお、本日の実習で出ました個人の情報等につきましては、プライバシーへの配慮をお願いいたします。」 (3) 「本日体験していただいた研修内容を子どもたちへ実践する際には、子どもたちの発達段階や実態に応じた体験活動になるようにすること。カリキュラムへの位置づけをすること。日常生活の中でも学習した内容が実践できるよう指導を継続すること等、十分に配慮する必要がありますが、ぜひ本研修の体験を生かしていただき、子どもたちに自分の気持ちを的確に表現できるコミュニケーション能力を身につけさせていきたいと思っております。本日はご多忙の中ありがとうございました。」</p>	<p>実践に向けての心構えを持つ。 個人情報の保護やプライバシーへの配慮について、注意を喚起する。 子どもへ指導する際の留意点(注8)について注意を喚起する。</p>
<p>01:20</p>	

(参考1) ソーシャルスキルトレーニングについて
 ソーシャルスキルトレーニングとは、効果的な対人行動の獲得を、体験学習をとおして支援していく練習法である。

(注8) 子どもへ指導する際の留意点
 この研修は豊かな人間関係を構築するための基礎的なトレーニングであり、小学校低学年から高等学校までどの段階でも実施可能である。
 子どもたちの実態に応じた体験活動になるようにする。トラブルへの対処法の手順にとらわれるのではなく、アサーティブな対応を重視する。
 実習中は、絶えず子ども一人ひとりの動きを観察しながら、雰囲気や溶け込みにくい子どもがあればその子どもに合った言葉かけをする等、個別のフォローをする。
 カリキュラムへの位置づけについては、例えば道徳や特別活動、総合的な学習の時間等に位置づける。

(資料4-1) 人間関係でのトラブル対処法
 < 教員研修用ワークシート >

こんなときどうする？

友人の一人があなたに腹を立てているようです。特に心当たりもないのですが、関係がどんどん悪化してきました。なんとか友人との関係を良くしたいと思います。

問題の明確化

問題は何か	
-------	--

対処法について考える

対処法 1	対処法 2	対処法 3
予想される結果	予想される結果	予想される結果

対処法を決定する
 () () ()

対処の順番を考える

1	2	3	4
---	---	---	---

対処の順番を決定する
 () () () ()

対処法を実行する
 (実行する際の留意点)

結果の確認

(資料4-2) 人間関係でのトラブル対処法
 < 子ども用ワークシート >

こんなときどうする？

友だちのAさんがあなたに腹を立てているようです。特に心当たりもないのですが、どんどん仲が悪くなってきました。なんとかAさんとの仲を良くしたいと思います。

「自分はどうしたいのか」を確認する

Aさんとの仲をどうしたいか	
---------------	--

原因について考える

原因 1	原因 2	原因 3

仲なおりする方法を決める

方法 1	方法 2	方法 3
予想される結果	予想される結果	予想される結果

仲なおりする方法の順番を考える

1	2	3	4
---	---	---	---

仲なおりする方法の順番を決める
 () () () ()

仲なおりを試してみる
 (実行するときに注意すること)

結果はどうなったか

【参考・引用文献】

・小林正幸・相川充(編著)『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』図書文化社 1999